



# 妙たえの光ひかり

通刊 87号 復刊 67号

2009年9月16日(季刊)

角田山妙光寺 発行

〒953-0011

新潟市西蒲区角田浜 1056

TEL 0256-77-2025

## 院庭の月

本堂前の院庭から眺めた仲秋の名月。前の山から出てきた月の明かりは、松の老木のシルエットを従えて境内を照らす。澄み切った秋の夜空の月はことのほか大きく明るい。

月を鑑賞する「十五夜」(旧暦八月十五日)の習慣は、平安時代に伝えられた中国の三大節句の一つ「中秋節」(家族団らんの日)に由来し、旧暦の秋にあたる「七、八、九月」の真ん中に八月が位置するから中秋という。日本では秋の収穫物を供え、神仏に豊穰の感謝を捧げる意味合いもあるという。

幼い頃、ススキの穂と月見団子や里芋をお供えた縁側の台の先に、雲ひとつない空に浮かんだ煌々と光る満月の光景が印象に残っている。毎日を慌しく過ごしてしまい、こうした風情ある習慣が消えていくことが寂しく感じられる。

仲秋の月の庵に僧ひとり

岡安迷子

# 「安穩廟」満二十年、 「フェスティバル安穩」二十回

小川英爾

平成元年に開設した「安穩廟」が丸二十年経過し、開設の翌年から始めた「フェスティバル安穩」が二十回目を迎えました。そもそもは全国の過疎地で人口が減って寺の維持ができなくなる、そんな各地の実情を宗門の연구원として調査に歩いたことがきっかけでした。同じころ、妙光寺でも後継ぎのいない檀家から墓を誰に守ってもらうかという相談が相次ぎ、今まで寺を支えてきた「〇〇家」といった「家」が続かなくなり、これまでのようには寺が成り立たなくなる。家族の形や社会の変化という点でこうした問題の根は一緒だとい気がついたのです。

そもそも寺は、仏教を基本に一人ひとりの生き方を支えるところであり、そのための修行の場です。ところが江戸時代以降、主に葬式と法事を行い「家」のご先祖様を守るところという考え方が主流になりました。ですから墓の守り手がいらない、家の後継ぎがいらないことは寺の存亡にかかわる大問題になってしまうのです。

それなら発想を変えて寺が後継ぎを必要としない墓を作り、そこから現在の寺の問題を考え直し、本来あるべき姿を取り戻していこうと考えました。この案を、当時宗門の過疎地寺院対策委員長として提案しましたが、二十年を経た今でも会議ばかりで何も具体化されていません。そこで妙光寺の役員会議で提案したら驚くことにすぐさま賛同を得、費用の工面から行政手続き、イベントの協力まで皆さんが積極的に行動してくれたのです。それほどに妙光寺を案じ、思いを寄せていたことがよくわかりました。

「安穩廟」を開設した翌平成二年に、合同供養と生前交流を目的にした第一回のフェスティバル安穩を行いました。準備会議には若い私の友人から高齢の世話人夫婦まで六十人が集まって、楽しく打ち合わせしたことがつい昨日のことのように思い出されます。あれから二十年が経ち、おかげさまでこの間、妙光寺は外見も中身も大きく変わりました。ご縁の輪もさらに広が



りました。しかし寺本来の姿を取り戻すという点ではまだまだ道半ばです。何が変わったか一つ一つを挙げる紙数がないので、新しいご縁の輪を、最近のエピソードのいくつかを通してご紹介します。

●数年前のお会式に参加した長野県の女性Y(七十台)さんからの手紙。

「莊厳なお会式は、私自身思うところの多い場となりました。現在中学校ほかで戦争と引き揚げの体験を語り部として話が続けていますが、何百人という餓死者の葬送人となって、満州奉天の駅前に佇んでいましたときから、五十五年間のあまりに痛い心が続き、生きてよかったのか、死を選んだほうがよかったのか。また諸々の苦痛が絡み合いさらに手術等々ですっかり落ち込んでおりました。お参りさせていただき、お隣で接してくださる方々の優しさに心打たれて帰ってまいりました。」

戦前に満州へ開拓で渡ったYさんは、引き揚げ後に望まぬ相手との結婚とその夫の暴力に苦しみ、離婚を考えたものの二人の娘のために思いとどまったそうです。夫の死後は近くの市営霊園に埋葬したものの、自分ひとりで眠りたいと考え、妙光寺に出会いました。お元気なころは毎回のようにはホテルを予約して行事に

参加され、信州名物手作りの「おやき」を度々送ってくださいました。昨秋八十二歳で亡くなり、この五月納骨に見えたご長女からはこんなお手紙をいただきました。

「初めて伺うことで不安ばかりが頭の中で広がってました。しかし素晴らしい環境の中にあり、ご住職様はじめ若いお坊様、寺務の方々の優しい笑顔や対応に緊張もとれ、いつまでも居てお話ししていたい気持ちになっていました。／大好きな日本海の見えるお寺に安住の地を見つけた時の母はものすごくうれしかったことと思います。私は知りませんが、生前にはきつと何度かお寺に伺って、ご住職様に思いの文をお話して聞いていただいたりしていたのではないのでしょうか。／納骨してしまってから、今はただ寂しく町で背格好の似ているお年寄りを見かけると、どうしても生前の母と重なり、目で追っている時があります。もつとこうしておけば良かった、ああしておけば良かった・・・と反省ばかりです。／一人ひとりを尊重し、大切に考えて下さっているご住職様の慈愛あふれたお心に接し、思わず涙があふれてきて止めることができませんでした。／これからは母のお墓の「出会い」の言葉の意味を心にとめて、毎日を大切に生きていこうと思います。安穩廟の母をどうぞよろしくお願います。」

そして私たち家族にもお心をいただけますように重ねてお願い申し上げます。」

●両親の埋葬に來られた30歳代の姉と妹。私からの「お父さんはラテン音楽が趣味と聞いてましたが明るい方でしたよね」との声掛けに「そうなんです。最後まで仲のいい夫婦でいつもペアルックでした。母亡き後も遺骨をずっと傍に置いて、自分と一緒にくつつけて埋葬してくれて言われてました。安穩廟の趣旨に感動して、妙光寺さんが大好きなんだ！って、いつも私たちにも周りにも死ぬまで自慢してました。父に勧められて申し込まれた方も結構いらっしやるはずですよ。それでいて葬式しないでお別れ会をと言った父でした。でも父は父、私たちもこちらがとても気に入っているのです、一周忌をお願いしたいし、それぞれ家庭がありますがこちらのお世話になりたいのです」。

●長野県のYさんのように夫と墓を別にと希望される方もそれなりにいられる。一方でAさんは離婚した夫の埋葬を希望してこられた。安穩廟は自分自身が入る方しか受付けないが、Aさんは一緒に入るといふ。さらに檀徒になって夫の葬儀と自身の葬儀も申し込まれた。墓碑に刻む文字の原稿を娘さんと持って来たとき

の話。「亡くなってみれば悪い人ではなかったように思え、ま、いいかと考えました。娘には情が湧いたんだから、情と入れたらと言われたのですが、ちよつと違うんですね。そこでご住職にいただいた夫の戒名にあった寛和院、心ややかにゆるすの気持ちでしようか。ですから寛とすることにしました。娘にとつては父親ですしね。娘も嫁いで私一人になったので生まれた東京に戻ろう思いましたが、妙光寺があまりによく、檀徒の仲間に入れていただいたことですし、新潟で暮らすことに決めました。どうぞよろしくお願いします」。

こうしてご縁の輪が広がるのも安穩廟なればこそ。血縁を超えて新しい結縁の核に寺がなることも目標のひとつです。さらにそれが仏縁に繋がることを願っている日々ですが、こんなお話もいただきました。

●新潟市内の男性Mさんは「定年退職後に趣味で始めた料理教室が評判で最高に充実した毎日でした。ところが市の健診で悪性の胃ガンが見つかったのです。教室を知人に譲るなど、やる色が色々あるので手術を伸ばしてもらい、今日はご住職にぜひ葬儀をお願いしたいので檀徒の申込みに來ました。食事は旨いし自覚症状は全くなく、人生に思い残すこともありませぬ」と、手術に備えてなったという坊主頭で屈託なく笑う



姿に、頭の下がる思いでした。同席の奥さんと看護師の娘さんが「確かに悪性で厳しい状況です。私たちの前で本人は気丈ですが、かえって私たちの方がつらくて：。」と。

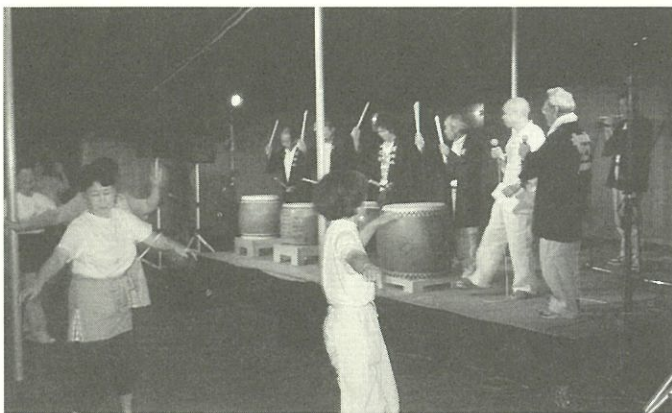
さまざまな人生をお聞きし、さっぱり力になれないもどかしさを感じますが、数年前にアンケートでいただいた回答を励みに、引き続き二十一年目に歩き出します。

「宗教とは無縁と思っていた私が、安穩廟と出会ってから、その考えが少々変わってきたような気がする。墓は死後のものと思っていたが、生前に私たちの思いを墓碑に刻み、しかも自然に恵まれた静かな環境の下に、近代的な墳墓を幾度となく訪れ、そして本堂に礼拝することとで、私は人生の達成感、安心感、自己の証を肌で感じることができるのである。これも妙光寺（宗教）とこの縁の賜と感謝している」。

「葬儀法要のほかは宗教関係の行事に縁がなく、また、形式的、権威的だという先入観もあって自分から機会を求めるとはあまりしなかった。しかし先般本堂の仏様の開眼法要の参観は思いがけぬ体験となった。境内を覆った霊気とでもいうか、染み入るような雰囲気の中、繰り広げられた読経、作法、説法などの深奥な迫力には、別天地へ引き込まれるように、心底魅了されてしまった。古希といわれる年齢にはなったが、これから妙光寺の催

しを通して、叙々に新しい世界に触れさせていただけると楽しみにしている」。

何やら我田引水、自画自賛めいてきましたが、妙光寺に多くの方々のご縁の輪が広がっていることは事実です。お寺だけでは応えきれないこともたくさんですが、それをまた皆さんの輪で支えていただいています。第二十回フェスティバル安穩ではお手伝いの方が七十人以上になりました。地元角田浜の檀徒、県内の安穩会員はじめ関東、関西、カナダからも。また「杜の安穩」増設の手續きに奔走してください。安穩会員さんもおられます。こうした妙光寺は長い時間の中で大勢の檀信徒の皆さんが作り上げてきたものです。一人の動きがみんなの力に、みんなの協力が一人ひとりを救います。



交流パーティーでも「安穩甚句」の演奏と、踊りの輪の中心は角田浜檀徒

# 「散華」の裏方

新潟市北区 野澤

進さん(七十七歳)



大きな法要に欠かすことのできない散華という紙で作った花びらがある。これは華を散らすと書いて、仏様をお迎えする場所に、花びらを敷き詰めて厳かに飾るために行うもので、インドやタイなど南の国では本物の花びらを使う。日本ではそうもいかず、紙で作っている。妙光寺では四月のご判様、八月一日のお盆法要、それにフェスティバル安穩で、数千枚を撒く。

市販のものは絵柄が印刷されてあったりして、一枚五円から十円以上するので高価なため、とても大量に撒くことができない。そこで妙光寺では五色の和紙を行事の前にお手伝いの皆さんがはさみで切って作っていたのだが、

これが毎回大変な作業だった。「仕事中に会社の机の下で切っていました」なんて方もいたりして。

その話を聞いた野澤さんが、「抜き型」

を作って紙を切り抜けば量産ができる、と知人に依頼して埼玉県川口市の鋳物職人に作ってもらった。元になる五色の和紙も安くはないので、親しい紙問屋の社長に話して市価の三分の一の値段で買えるようにしてもらった。以来十年ほどになるが、心おきなく散華ができる。四月から妙光寺に勤務している永石上人の大部分時代、結婚のお祝いに大量にこれを贈り、結婚式で撒いて大



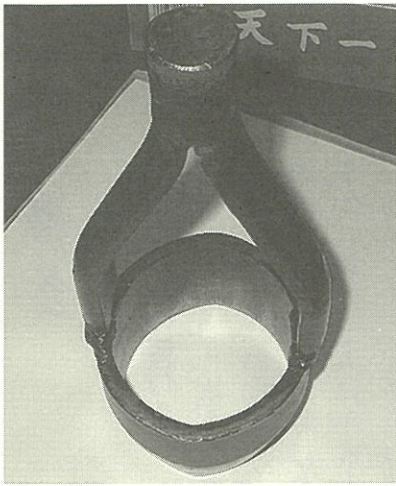
仏前結婚式での散華



好評だった。地味になりがちな法要が  
とても華やかで明るくなる。

野澤さんは父親の起こした製本業を  
十八歳のときから手伝い、取引先の印  
刷会社の倒産で廃業した十年まえまで  
五十年間携わってきた。だから紙の関  
係に詳しく知り合いも多い。この「抜  
き型」の職人を紹介してくれたのも、  
深沢紀文さんという同業の先輩だった。  
深沢さんは他宗派から日蓮宗に移った  
熱心な信者で、妙光寺にも二度お参り  
したことがあると後で聞き、そのご縁  
に二人で驚いたという。

「小さな業界なので、無理すると他社



散華を切る「抜き型」

と競合することになるからきっぱり廃  
業して、以来年金暮らしです」と。今  
二人の娘は嫁ぎ、同居する長男夫婦に  
子供ができないからと、家族で相談し  
て古くなった先祖の墓の改修を期に安  
穩廟に移った。生前戒名を受け、研修  
に参加して覚えたお経を毎朝欠かさ  
ない生活を送る。

「散華を切る『抜き型』も切れ味が悪  
くなるから、電話帳で『研ぎ師』見つ  
けたが高齢で後継者がいない。予備を  
作ろうにも深沢さんは亡くなってしま  
い、十年前の業者とも連絡が取れませ  
ん。自分も先日の免許の更新ではなん  
とか大丈夫だったが、運転ができるう  
ちにもう一つ作って心配ないようにし  
ておきたいのです」。そう言って、刃物  
製造業の多い三条市近辺を歩いている。  
(恥ずかしいからと本人の写真はお断り  
されました)



## 寺の動き

### ●鎌田上人、寒百日間の修行へ

日蓮宗には十一月一日～翌年二月十日までの百日間、睡眠三時間で水行と読経に明け暮れる「荒行」と呼ばれる修行があります。鎌田上人は平成九年に二十七歳で初めて入り、それ以後は三か月間妙光寺を空けることが難しく行けませんでしたが。この春から人手が増えたことでこのたび一念発起、二回目に挑戦することにしました。厳しい修行で、三十代前半まででないとい体力的に大変です。ちなみに鎌田上人は三十八才。

公式な日蓮宗の修行道場は、千葉県市川市中山の法華経寺にあります。本来の伝統からいえばこの塔頭（たちゅう、前寺のこと）にある遠寿院というお寺が元祖で、こちらの方が少数であり厳しいといわれています。鎌田上人は前回こちらですから今回もこの遠寿院に入ります。



本堂での施餓鬼法要

百日間自分自身の修行とともに、檀信徒の皆さんの安全をお祈りします。で、特別に祈願を希望される方の申込みをお受けします。また修行期間中に遠寿院を参拝し、激励する機会を計画します。詳しくは次号でご案内しますので宜しく願います。

### ●益参にぎわう

恒例の八月一日のお盆お墓参りと施

餓鬼法要、併せて新益法要を営みました。例年は暑いのに、今年は梅雨明けの無いまま迎えてお天気が心配されましたが、夜の雨もやんで朝から涼しい曇り空。夕方からはまた雨になりました。

土曜日でもあり駐車場も満杯で、一時は墓地がごった返すほどの人出。お墓にお経をあげる僧侶が九人でも手が足りないほどでした。

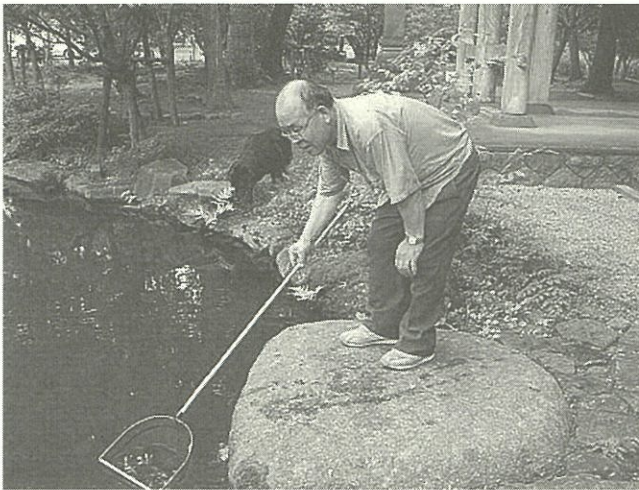
また以前はカキ氷屋の出店もあったので、今年は本堂前に冷たい飲み物やコーヒー、子供向けのヨーヨー釣りもあるお店を出したところ、大好評で準備した品物が完売という盛況でした。

十時半安穩廟法要、十一時本堂での施餓鬼法要と新益法要。近隣はもとより、長野、埼玉、千葉等県外からの方もいましたし、安穩廟での墓前読経が増えたのが印象的でした。また皆さんの上げた塔婆供養の読み上げに時間がかかり、法要が一時二十分にもなつたので、来年から工夫します。



### ●池に鯉の稚魚放流

三重塔の池に二百匹近い錦鯉の稚魚を放流しました。新しい池はコンクリートから出る成分で魚は生きられないのですが、数年たちましたのでそろそろ大丈夫とと思っていました。そこへ弥彦村の羽生信二さんからお盆前のある日に申し出があり、本場で知られる山古志の錦鯉の稚魚を放流していただきました。

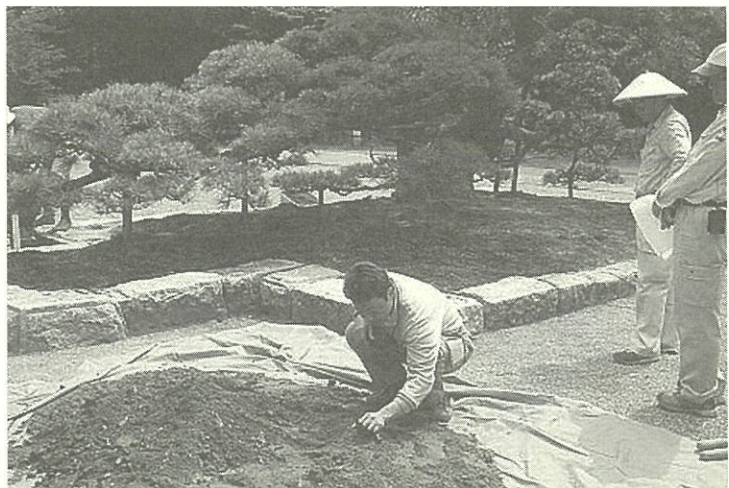


池に錦鯉の稚魚を放す羽生さん

境内にあるもう一つの池にも大きな鯉がたくさんいますが、ぜんぶ黒い鯉です。こちらも角田浜出身の石田さんが、以前に錦鯉を放流したものの、鯉が飛来して食べつくしてしまいました。上空からは色のついた鯉だけが見えるようです。三重塔の池は木に囲まれていて鷺も降りにくいので、大丈夫かと思えます。鯉には毎日夕方細かい餌を与えますが、最近は慣れて集まってくるようになりました。成長が楽しみです。

### ●松の樹勢回復処置

本堂の前にある松は、その形と樹齢から妙光寺にとって宝とも言える銘木です。春先から枝の一部が枯れたり、木に勢いが見られないことから樹木医の診断を受けました。その上で害虫駆除の薬剤を散布し、根元に元氣の出る漢方薬と炭を入れ、樹勢回復の処置を施しました。日照不足も原因の一部らしいのですが、松くい虫ではないようです。維持管理も大変です。



松の樹勢回復作業

### ●「杜の安穩」増設計画

「杜の安穩」増設計画は県庁との事前協議でほぼ見通しがたち、今後は市役所との相談に入ります。行政への許可申請手続きは時間ばかりかかってテキパキとは行きません。このままですと、許可が下りても工事は来春になりそうです。一方で予定地の隣接地主か





増設予定地

らは快く土地購入契約ができるなど、準備は進行しています。

### ●安穩廟用の花立を増設

安穩廟の参拝用として水場に花立を常備してあり、お盆やお彼岸にはさらに数を増やして対応しています。その数をさらに増やし、またその形を業者に注文して少し変更しました。花立の強度を強くしたのと、線香を立てるの

ではなく、寝かせるよう網の入った皿にしました。これで線香が最後まで燃え尽きるようになりました。

### ●風に消えない墓参のロウソク

お墓参りの際風が強くてロウソクに火が点かない、すぐに消えるといった問題があります。ロウソクに柔らかい和紙か、ティッシュペーパーを巻いて端を糊で止め、先端は紙を長めにしてねじってください。点火の際、この先端の紙に着火します。こうすることでロウソク全体が燃えるので、少しくらいの風で消えなくなります。燃えすぎで炎が大きくなりますので、周辺に燃え移らないよう十分ご注意ください。

### ●年会費

六月末の前号の配布と一緒に、年会費のお知らせをしました。お陰さまで順調に納入いただきました。あわせて近況や住所変更、間違いの訂正等お知らせいただきました。ありがとうございました。ご都合でまだの方はよろし

くお願いします。

### ●住職の講演

この秋も住職の講演が続いています。九月七日は東京板橋区仏教会の研修会でした。今後は左記の日程ですので、詳しくは直接お問い合わせください。

十一月二十一日(土)

新潟市江南区社会福祉協議会

同 二十八日(土) 十時

新潟市西区役所

黒崎市民会館

同 二十九日(日) 十四時

新潟市北区役所

北地区コミニティーセンター

十二月五日(土) 十四時

新潟市南区 白根学習館





## ご案内

### 身延山・七面山団体参拝

日蓮宗総本山の身延山久遠寺と、七面山(山梨県)への団体参拝旅行を募集中です。新潟から大型観光バスで行き、県外からは現地集合のご案内します。体調不良等でキャンセルがあり若干名の余裕がありますので、お問い合わせください。

期日は十月四日(日)～六日(火)、一日目久遠寺参拝、二日目希望者は徒歩で七面山に登山参拝し宿泊、三日目富士山からのご来光を仰ぎ下山。登山しない方は身延山奥の院、その他のお寺を参拝して温泉宿泊。三日目登山口で合流後、松本経由で新潟へ戻ります。七面山は二千メートルで平均四時間、今回も八十代の女性が登ります。どなたでも参加できます。

### 生前に戒名をお授けします

#### 戒名とは

仏さまの弟子となった証として生前につけるのが本来で、葬式でつけるのは間に合わせです。日蓮宗では法

号と言います。世間では戒名料とか称して、お金で買うがごときに思われているようですが、妙光寺ではこれまでもこれからも経費以外は無料です。

ただし檀徒であることが条件です。安穩会員でも後継ぎの有無に関係なく申込みはできますが、その後は檀徒(年会費一万円)になっていただきます。息子さんなど次の世代がおられる場合は、その代になったとき本人が安穩会員か檀徒になるかを選択します。檀徒になることを強制することは一切ありません。

十一月八日

(日)午前九

時集合。研修

を受けた後、

式に参列いた

だき昼食後法

話、午後三時

ころ解散。礼

服までは不要

ですが、男性

でしたら背広

にネクタイ程

度でお願いし



生前戒名での研修会

ます。

式の前の研修は日蓮宗の基本についての住職のお話です。費用として三万円を当日納めてください。戒名とその説明書、戒名を刺繍した略式の輪袈裟、それに数珠を記念に差し上げます。戒名にはお名前の一文字かご希望の文字を入れます。

お申込みは（取り敢えずの問合せだけの方も）準備の都合上十月中旬までにお願ひします。折り返し詳しい案内書をさし上げます。体調が悪くてお寺まで行けないという方はご相談ください。

### お会式えしぎのご案内

別紙でご案内の通り、日蓮聖人第七二八回忌にあたる御命日の法要を営みます。ご参加ください。

十一月八日（日）

午前十一時 法要

昼 おとき

午後 一時 記念法話

大島龍穩 師

### 総供養会の予定

法事が当たっていても都合でできなかつたという方のために、お寺で合同の法事を計画しています。十二月の日曜日を予定していますが、詳しくは次号でお知らせします。ご希望の方はお問合せ下さい。

### 研修道場開催予定

都合で休止していましたが研修会を、来春に再開します。これまでは一泊二日でしたが、泊まるのは家を空けにくいという声があり、日帰りを検討しています。数珠の持ち方、焼香の仕方等々基本の実習からお経練習まで、段階別に研修していただきます。詳しくは次号でご案内します。







## フェスティバル安穩が盛会でした

第二十回目を迎えたフェスティバル安穩を八月二十九日、初秋の気配漂う爽やかな天気のもとで開催しました。県内外から三百人を超す参加者とお手伝いスタッフ七十人で、大変にぎわいました。その模様取材し掲載された『週間仏教タイムス』の記事から一部を抜粋して紹介します。

### 核家族時代の共同体に

第一部「語り合い」では、「私の想い」をテーマにパネルトーク。雑誌『SOGI』編集長で葬送ジャーナリストの碑文谷創氏を司会に、妙光寺寺庭（住職婦人）の小川なぎささん、檀徒の大滝幸子さ

ん、安穩会員の柿崎恭子さん、新倉理恵子さんが、妙光寺や安穩廟、フェスティバルへの思いを迷懐した。小川住職への「注文」も飛び出し、大いに盛り上がった。

中でも、なぎささんは、妙光寺に嫁いでからの日々を回顧。「気持ちが悪く折れそうになったとき、今はお墓に入っている檀家のおばあちゃんたちが助けてくれました」と涙で追想し、「お寺は心のオアシスにならなければいけないと思っています」と述べた。

第二部「歌とトーク」では、シンガーソングライターの小室等さんと映画評論家のおすぎさんが登場。小室さんが名曲「いま生きているということ」



第二部・小室さんとおすぎさんのトーク



第一部・語り合い

などを熱唱すれば、おすぎさんも爽やかな「毒舌」を連発した。テンポよく展開する絶妙トークに、会場も笑顔と拍手で応じた。

特に小室さんの「どのように死にたいですかね？」という問いかけに、おすぎさんは「おかまは誰にも知られずになくなるのよ。このあたり（妙光寺がある角田浜周辺）だったら、誰にも知られずに死ねそうじゃない」などと軽妙な死生観を披露。さらに「（故人の）悪口が言えないような送り出しの仕方はしっちゃいけないよね」と、独自の葬送観を提示した。

### お寺は出会いの場

6回目の参加だという70代の夫婦（新潟市）は、8年前に安穩廟を購入。「主人は長男で（家のお墓もありますが、私は『自分のお墓は自分で決めたい』と。私は

一人で入るつもりでしたが、主人が一緒に入ってもいいと言ってくれました。孫が亡くなって、安穩廟に入っています。倅が安穩廟の供養を続けていきます」と話した。

毎年参加している男性は、「（難病で療養中の）家内が来られないのが悲しいですが、毎年こうやって皆さんの顔をみることでできて感無量です。家内の分までね」と語っていた。

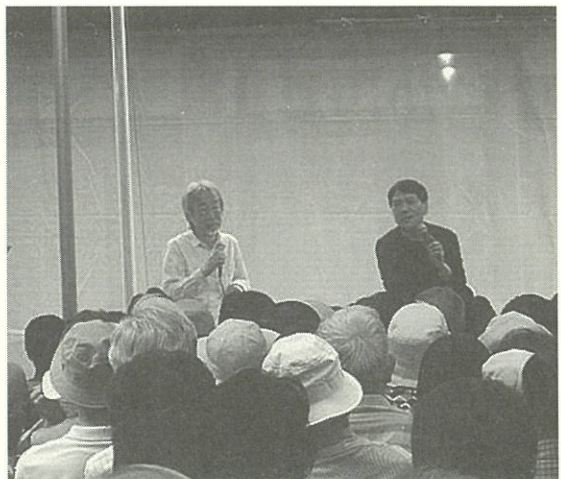
安穩法会は20回を記念し、本堂と安穩廟の両所で営まれた。本堂から廟前に移動した参列者は、各自の想いのある場所に献灯。祈りやメッセージが添えられた300灯の揺らめきの中、小川住職を導師に「安穩の祈り」が捧げられた。

（以上「仏教タイムス」の記事から抜粋）

法要の後、三年ぶりに復活した交流パーティーでは、八十人の参加者に七十人のスタッフが入り混じって、なす漬けや枝豆を手に和やかに談笑。後



灯籠への点火作業



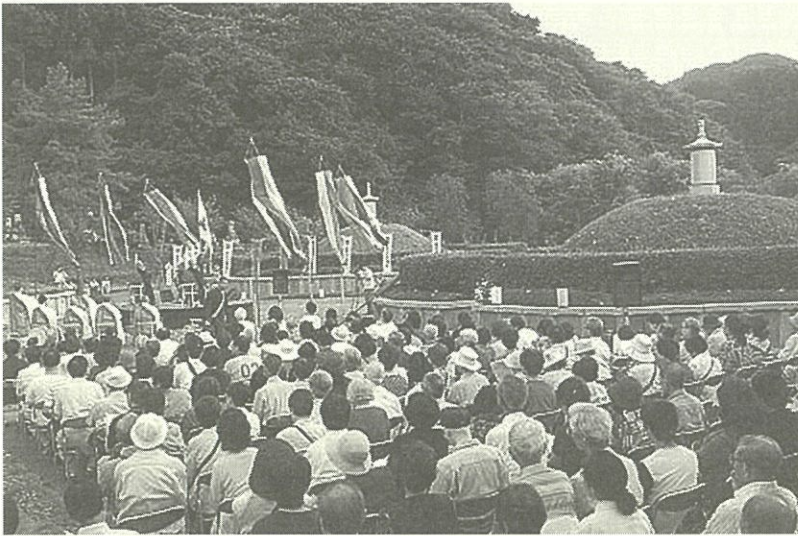
小室さんとおすぎさんのトーク



半は千葉県勝浦市の日蓮宗住職が友人のコックと結成したバンド、「しんが」の見事な歌声が響き、さらに「安穩甚句」で踊りの輪ができるなど、名残り惜しい中で八時半のおひらきとなりました。

三百個用意した献灯の灯籠が事前には完売で、当日受付分も用意できませんでした。初めての試みで文字の間違いや点火に時間がかかるなど、ご迷惑をおかけした点もありました。しかし交流パーティの時間帯に、境内に移してゆらゆらと灯った三百の灯かりの見事な美しさに皆さんうっとりされ、「ぜひ来年も」との声を多数いただきました。問題点を改善して継続します。

また今年には檀信徒の参加も多く、「安穩廟のための行事」と思っていたのですが、あまりに楽しくてもっと早くに参加すればよかった」と話されました。九月十四日発売の『週間東洋経済』でも写真付きで紹介されます。



山と安穩法会



銘々で灯籠を持って安穩法会の会場に移動





安穩法会の式衆



皆さんで撒いた`散華、



第四部・交流パーティー



## 寺庭から

# 「ありがたし！」



小川 なぎさ

夏が終わるといつもくたくたで、体力は回復するのですが氣力の回復には少し時間がかかりそうだったので、気分転換をしてきました。

最初は阿武隈川の源流近くに行ってみました。下流では大きな川もその始まりは小さなながれでした。川音を聴きながら温泉につかり、眠りにつきました。一緒にでかけたのは、住職の古い友人夫妻で、奥さんは寺庭夫人の先輩。うちの寺よりもっと忙しいお寺をしつかりと切り盛りしている尊敬する方です。と同時に泣き言を聞いてくださるとても大切な友人です。いろいろなことをひとしきり話して明日への道しるべとする・・・お互いに時間がいっぱいいっぱいいな生活をしているので、年に数回会うだけなのですが本当

にありがたいです。

またその後、住職の出張にお供して京都に行く機会がありました。一泊だけの短い時間でしたが、帰りには美山町の山奥の小さなお寺におまいりしてきました。住職がその先代住職に学生時代大変お世話になったとか。そこは深山幽谷の中にたたずみ、本堂の裏山には七面様がまつられ、滝があり、霊験あらたかというのとはこんな感じなのかと思いました。いきとどいたお掃除と、たった一人、（いえ白い大きな犬がご住職に寄り添っていましたから、プラス一匹です）でお守りしているお寺のすがすがしいこと。僧侶としてこのような姿もあるのかと、ありがたい気持ちになって帰ってきました。

夏の行事も無事に終わりました。さ

まざまな行事はたくさんの方々の力なくしてはやっていけないものです。年間を通してお手伝いに来てくださる皆さん、本当に心から感謝いたします。お手伝いというより仏様にご奉仕するということでも尊い活動だと思います。この夏も、早朝から草取りをして下さった方、お参りに来て、何か手伝いましょうか？と声をかけてくださった方、うれしかったです。夏の暑いなか本当にご苦勞様でした。

私は今、秋の風を感じながら感謝の気持ちで生きています。おかげさまで元気です。皆さんもどうぞ夏の疲れがでませんように、秋もお寺におまいりにおいでくださいませ。

〈お知らせ〉

鎌田上人が三ヶ月不在になり人手が足りません。そこでお願いです。秋の境内掃除をお手伝いいただけませんか？境内の落ち葉はき、草取りなどです。日にちを決めてわーっとやれたらと思っております。ご協力いただける方はぜひご連絡下さい。焼き芋でもしませんか。

# 行事案内

## ●秋のお彼岸法要 九月二十三日(祭日)

午前十時半 安穩廟法要

十一時 彼岸会中日法要

昼 十二時 おとき

午後一時 法話 住職

永石光陽 上人

どなたでもゆつくり静かにお参りできます。  
おときは当日受付でお申し込みください。



## ●身延山・七面山団体参拝旅行 十月四(日)～六日(火)

若干名受付中 詳細は9ページにあります。

## ●お会式、戒名授与式 十一月八日(日)

午前十一時 お会式、戒名授与式

昼 十二時 おとき

午後一時 法話 大島龍隠 師

準備の都合上、事前に申し込みをお願ひします。

あ  
と  
が  
き



気象台が梅雨明け宣言をできなかったというほどの天候不順な夏。皆さんにとってこの夏はいかがでしたか。妙光寺の夏の行事はすべて天候に恵まれ、多数の参加をいただきました。感謝しています。

お伝えしたいことが多くなり、紙のサイズを大きくすることも考えましたが、今のままの方が親しみやすいのではないかとの結論になりました。そこで少しでも読みやすくしたいと、ページ数を増やしてゆつたりしました。さらに初の試みとして、表紙の写真をカラーにしました。できるだけ身近な妙光寺であって欲しいという思いが伝われば幸いです。

あつというまに秋を迎えて、稲刈りも始まりました。相変わらずの世相ですが、新しい政権で暮らし向きが少しでも良くなることを願うばかりです。

小川